

令和 3 年度

事業報告



社会福祉法人

あじさいの家

令和 3 年度事業報告 目次

1、あじさいの家 基本理念		◎行事	9
1)目的	1	◎交流	9
2)運営方針	1	◎実習	9
3)重点項目	1	◎安全・防災	9
2、日課		◎医務・健康	9
3、運営組織図及び担当	2	◎研修	10
4、利用者及び職員状況一覧	3	【生活介護】	
5、年間行事報告一覧	5	◎活動	10
6、業務報告及び活動報告		○ミーティング	10
◎運営	7	○創	11
◎職員会議	7	○楽	11
〈総務部〉		○動	11
◎広報	7	○人形劇	11
◎施設管理	7	○個別外出	11
◎防災管理	7	【日中一時】	11
◎車両管理	8	【短期入所】	12
〈支援部〉		〈事務部〉	
◎ケース会議	8	◎庶務・経理	12
◎支援計画	8	●全体を通して	12
◎摂食	8		

1、あじさいの家 基本理念

1)目的

一人ひとりが日々充実して過ごし、生活の幅を広げながら、安心して地域生活を送ることができるよう支援することを目的とする。

2)運営方針

- ・ 生きがいを持って、豊かに暮らすことができるように支援する。
- ・ 安全で健康的な生活を送ることができるよう支援する。
- ・ 一人ひとりの個性が発揮できるよう支援する。

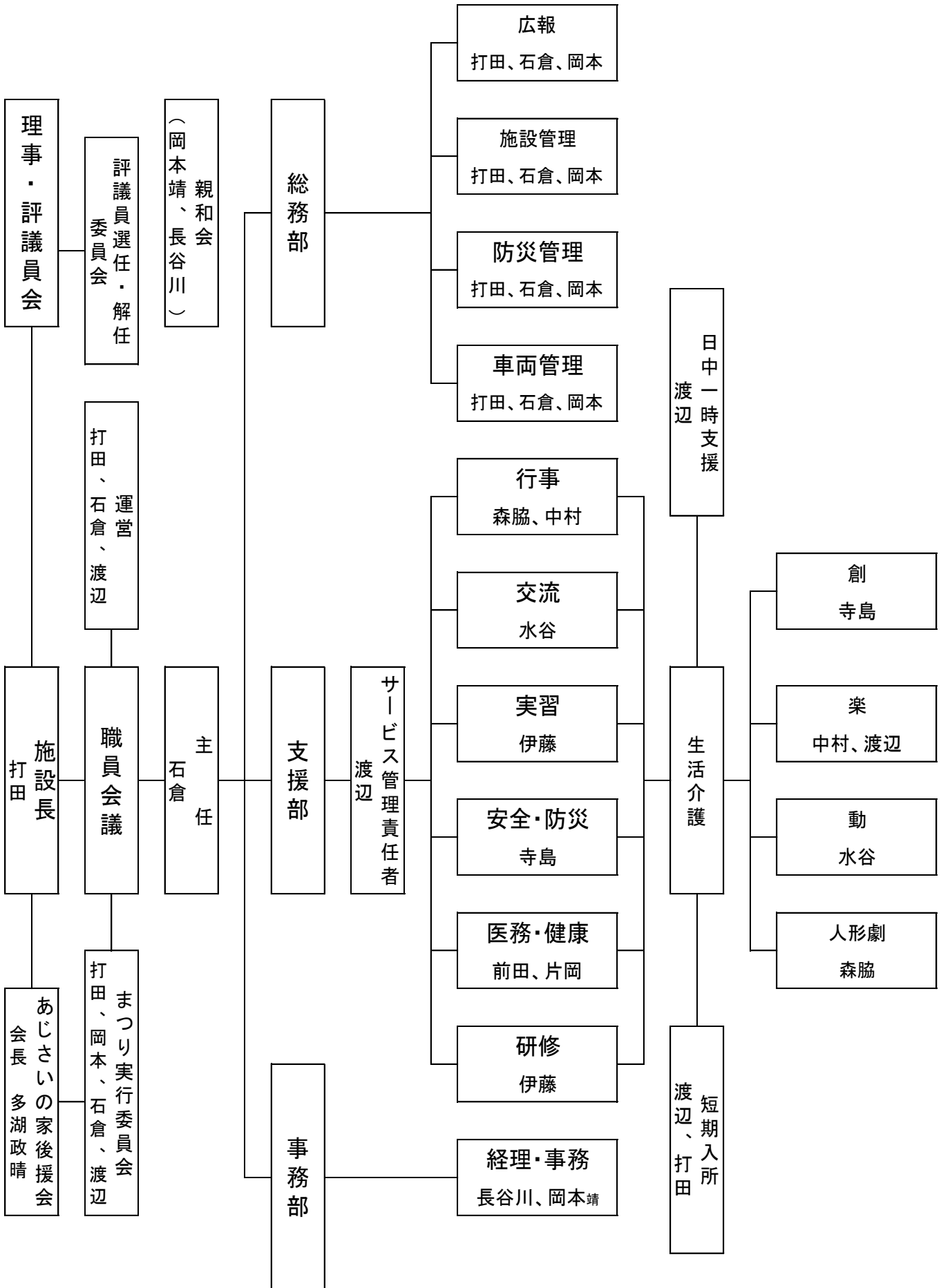
3)重点項目

- ・ 一人ひとりの個性を尊重し、自己表現できる場や機会を設定する。
- ・ 一人ひとりの障がいの特性を的確に把握し、体調の変化には絶えず留意する。
- ・ 地域とのかかわりを大切にし、社会資源を有効に使ったり、地域に積極的に出かけに行くなど、いろいろな体験をすることで生活の幅を広げる。
- ・ 居宅生活が安心して送れるよう支援する。

2、日課

8:30	職員打ち合わせ	14:00	午後の活動
8:40	送迎及び準備	15:15	片付け、帰宅準備
9:30	活動準備	15:45	帰りの会
10:00	朝の会	16:00	帰宅(送迎)
10:30	午前の活動	16:00	記録(清掃)
11:40	昼食準備	16:30	会議(活動準備)
12:00	昼食、休憩	17:30	帰宅

3、運営組織図及び担当



4、利用者及び職員状況一覧

1、利用者の状況

令和4年3月末現在

(1) 通所状況

利用者定員 20名 利用者実数 18名

(2) 入退所状況

令和3年度 新規利用者 男性 0名 女性 1名
令和3年度内 退所者 男性 1名 女性 1名

(3) 曜日別利用者数

曜日	月	火	水	木	金	1日平均	昨年度
男	9	8	9	12	12	10	11.4
女	3	2	2	4	2	2.6	2.6
計	12	10	11	16	14	12.6	14

(4) 通所市町

市町	いなべ市	東員町	桑名市	四日市市	菰野町	計
男	7	3	3	0	1	14
女	2	0	0	2	0	4
計	9	3	3	2	1	18

(5) 年齢別在所者数

年齢	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	計	平均年齢
男	0	5	6	2	1	14	36.2歳
女	0	0	2	1	1	4	40.8歳
計	0	5	8	3	2	18	37.2歳

(6) 施設在所者数

平均在席年数 13.8年

在籍年数	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上	計
男	0	0	0	1	3	10	14
女	0	0	0	0	2	2	4
計	0	0	0	1	5	12	18

(7) 障害手帳保有状況

	1種		2種	計
	1級	2級		
男	12	2	0	14
女	4	0	0	4
計	16	2	0	18

(8) 障害程度(療育手帳判定による)

	A 最重度	A 重度	A1	A2	計
男	7	1	3	3	14
女	2	2	0	0	4
計	9	3	3	3	18

(9) 障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分3～5	区分 6
男	0	0	0	14
女	0	0	0	4
計	0	0	0	18

(10) 日常生活状況

・移動 ※ 自力歩行、自助具を使用される方は、車椅子も併用している。

	自力歩行	車椅子使用	補助具移動	自力	半介助	全介助
男	1	14	1	0	1	13
女	0	4	0	0	0	4
計	1	18	1	0	1	17

・排泄

	自立	見守り	全介助
男	0	2	12
女	0	0	4
計	0	2	16

・食事

	自立	見守り	半介助	全介助
男	0	1	1	12
女	0	0	3	1
計	0	1	4	13

・食事形態 ※ 口からの摂取と経管栄養の併用有り

	普通食	普通食(一口)	刻み	ペースト(重複)	経管(胃瘻)	経管(鼻腔)
男	0	3	0	11(4)	3	1
女	0	3	0	1(1)	1	0
計	0	6	0	12(5)	5	1

・医療的ケア状況

	口腔内吸引	気・切吸引	胃瘻	鼻腔	導尿	尿路ストーマ
男	6	0	4	1	1	1
女	1	0	1	0	1	0
計	7	0	5	1	2	1

(11)各事業別利用状況

生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	177	148	169	142	150	168	164	162	137	124	118	137	1,796	150
東員町	66	52	64	57	53	62	62	66	45	53	56	66	702	58.5
桑名市	40	33	38	32	33	39	37	35	35	31	32	45	430	35.8
菰野町	8	5	7	6	6	10	7	8	8	10	6	10	91	7.58
四日市市	11	9	9	9	9	21	10	13	8	9	12	8	128	10.7
合計	302	247	287	246	251	300	280	284	233	227	224	266	3,147	262

日中一時

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	8	10	14	11	8	23	10	5	6	10	12	8	125	10.4
東員町	4	5	3	3	4	5	4	4	3	4	5	4	48	4
桑名市	3	2	5	4	3	3	5	4	5	3	5	5	47	3.92
合計	15	17	22	18	15	31	19	13	14	17	22	17	220	18.3

短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	12	1
東員町	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	6	0.5
桑名市	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	2	8	0.67
合計	0	1	0	0	3	11	2	0	2	0	0	7	26	2.17

2、職員の状況

(1)就退職状況

令和3年度新規採用者 男性 0名 女性 0名
 令和3年度内退職者 男性 0名 女性 0名

(2)職員状況

職名	正規職員		パート職員		業務委託職員		計
	男	女	男	女	男	女	
施設長	1						1
副施設長	1						1
サビ・管		1					1
支援員		6	1	5			12
看護師				2			2
事務員				2			2
調理員				2			2
運転士			1		1		2
計	2	7	2	11	1	0	23

※支援員の常勤換算人数 11.2人

5、年間行事報告一覧

	法人関係	施設運営関係	行 事	交 流
4月	辞令交付(1)	安全点検(12) 職員会議(13)		
5月	法人監査(25)	安全点検(12) 職員会議(11)		
6月	理事会(9) 評議員会(24)	安全点検(23) 職員会議(15) ケース会議(15)	誕生会(11)	
7月		職員会議(13) ケース会議(13)	誕生会(2) 七夕会(7)	
8月		安全点検(30) 職員会議(10) ケース会議(10)	夏祭り(中止)	ジュニアアンサンブル (中止)
9月		安全点検(8) 職員会議(14) ケース会議(14)	誕生会(23)	
10月	理事会(中止)	安全点検(6) 避難訓練(26) 職員会議(12)	ハロウィーン(28)	
11月	評議員会(中止)	安全点検(3) 職員会議(16)	あじさいの家餅つき(中止) 誕生会(18)	いなべ市障がい者 スポーツ交流会(中止) 地域交流会(展示)11/25～ 12/15シビックコアにて
12月		安全点検(9) 職員会議(6)	誕生会(17) クリスマス会(24) お楽しみ会(27)	いなべ市 人権フェスティバル (中止)
1月		安全点検(12) 職員会議(18) ケース会議(18)	誕生会(20) 初詣(中止) お楽しみ会(26)	
2月		安全点検(16) 職員会議(15) ケース会議(15)	節分(3)	地域交流会(展示)2/26～ 3/13大安イオンにて
3月	理事会(8) 評議員会(23)	安全点検(7) 避難訓練(15) 職員会議(8.31) ケース会議(31)	ひな祭り(3) W成人式&誕生会(28)	

	実習	医務・健康	研修	人形劇
4月		体重測定(15)	井後PT訓練会(13)	
5月	ユマニテク実習(26～28) (31～6/2)	平山医師健康診断(14) 体重測定(27)	井後PT訓練会(11)	
6月		体重測定(18)	井後PT訓練会(8) 井後PTによる施設内研修 (22)	
7月	いなべ市新人職員研修 (中止)	体重測定(8)	古川PT研修会(29) 井後PT訓練会(13)	
8月		体重測定(5) コロナワクチン予防接種(13)	井後PT訓練会(10) 多田T訓練会(中止) 静的弛緩誘導法研修(中止)	
9月		体重測定(16) 健康診断(7～28) コロナワクチン予防接種(3)	井後PT訓練会(14)	
10月	ユマニテク実習(中止) 北勢中学校勤労体験 (中止)	体重測定(7)	井後PT訓練会(12)	
11月		体重測定(4) インフルエンザ予防注射(5)	井後PT訓練会(9) 施設内研修(24)	
12月		体重測定(1)	井後PT訓練会(14)	
1月		体重測定(6)	古川PT研修会(7) 井後PT訓練会(11)	
2月		体重測定(3)	井後PT訓練会(8)	エンゼル保育園(28) (中止)
3月		体重測定(3) コロナワクチン予防接種(11)	井後PT訓練会(8)	

6、業務報告及び活動報告

◎運営

施設の運営に関する内容について、円滑、迅速に進めることができるように、管理や調整を行ってきた。特になかまの日々の支援や活動、生活などについては、スムーズに機能するように対応してきた。

新型コロナの影響で、外部と接する大きな行事はほとんどなかったが、施設内での行事に関しては、各係と相談し協力体制をとった。

又、感染対応については、保健所やいなべ市福祉課の指示、また嘱託医の意見を聞き、迅速に対応することで、なかまや保護者の不安軽減に努めた。

来年度は日々の支援に加え、今後の施設の運営についても話し合いの時間をとり、なかまが地元で安心して生活できるように考えていきたい。又、様々な事案について職員間の共通理解を図っていく。

◎職員会議

なかまや保護者の協力のもと、月に1度実施することができた。予定を確認し、行事や活動について職員間での共通理解を図った。また、施設運営についての話し合いをもった。パート職員の勤務体制もあり、全員の参加はなかなか難しく、欠席者については後日議事録を確認してもらうこととした。加えて緊急性のある内容のものについては、個別に直接伝達するようにした。

来年度も定期的開催し、必要に応じて臨時会議も行い、なかまにとって、より良い環境で安心して過ごすことができ、施設運営全体が円滑にすすめられるように実施していきたい。

〈総務部〉

◎広報

広報「あじさい」については、今年度は1回だけの発行となってしまったが、不定期発行の「かわらばん」については、数回発行した。施設内の状況及び情報を発信することで、なかまや保護者、職員の情報共有に努めた。

施設内や屋外の掲示板については、定期的に作成した。特に屋外の掲示板は、地域の方も足を止めて見ていただいているので、季節を感じる内容のものを取り入れたり、コロナ禍であるため、前向きな歌詞を選んだりし、楽しく作成した。

HPについては、色々な活用方法を積極的に考えていきたい。

◎施設管理

施設建屋、施設敷地内のすべての備品、設備等に関して、安全・防災の行う施設内の安全点検をもとにして管理を行った。大きな不具合は見られなかったが、小さなトラブルは見られた。その都度応急処置で対応できたが、今後は改善箇所等の早期発見に努め、対応していくことが必要であるとする。

また、旧あじさいの家の建屋及び敷地内の現状を維持するよう努める。

◎防災管理

年2回の業者委託の設備点検時には、スプリンクラーの点検も合わせて行った。

3月に行った避難訓練では、緊急通報システムを使った訓練を取り入れた。設備の管理は当然必要であるが、実際にそれを使った実地体験も大切である。今後も体験の機会を設けていきたい。

計画であげていた、備品や環境の整備に関しては、必要物品のリストアップや資金の問題など、先に進むことが困難であった。またBCP(事業継続計画)の作成にも着手したが、十分な話し合いを持つ機会も少なく、スキルを上げることも困難であった。引き続き取り組んでいくことが大切であると思う。

◎車両管理

今年度も無事故で大きなトラブルもなかったことは、何よりであった。しかし車両に関しては、使用年数や走行距離が多くなった車両も増えてきた。修理等にも費用が増えてきた実態を踏まえ、車両の入れ替えを定期的に考えていく必要性を感じた。

また一番大切なことは、職員一人ひとりが安全第一で乗務することと、車両の取り扱いに注意し、不具合を感じたら速やかに対処を行う事である。

〈支援部〉

◎ケース会議

月に一度の職員会議時、ケース会議の時間もとり実施してきた。

なかまの体調や事情によっては急遽意見交換や確認し合わなければいけないこともあり、朝の打ち合わせ等を利用し、伝達、共通理解の場としてきた。内容としては年齢を重ね変化する状況に対して、本人の様子、気を付けなければいけないこと等しっかりとした把握が必要であり、課題も増えてきていると思う。

来年度もなかまそれぞれのケースに対し、改めて一人ひとり日々変化する状況や問題点を見直しより良い支援や関わりを考えていく場としていく。

◎支援計画

前年度末の懇談内容と体調の変化、環境の変化を確認し、本人の思いもしっかりと踏まえ、なかま一人ひとりに対しての支援を考えてきた。状況によっては急遽計画の見直しをしなければいけない場合もあり、その都度職員間の共通理解を図ってきた。

来年度も本人の思いや体調の変化を含め、それぞれに、安心して充実した日々を過ごせるように計画を立てていきたい。

◎摂食

食事の時間は本来楽しいものであることを大切に、なかまと職員がコミュニケーションをとりながら、食事介助を行ってきたが、コロナ禍でフェイスシールドやマスク、手袋、なるべく黙食をするなどの感染予防に努めた。加えて、加齢と共に嚥下機能の低下や、ムセ、痰が多く、大変な状況もみられた。一人ひとりの特徴やその日の体調を把握し、食事量の調整や注入への切り替え、食事中のポジショニングに配慮し、本人の負担にならず、安全かつ事故のないように対応し

てきた。

今後も食事の時間が楽しい時間となるように、職員間の情報共有も大切にしていこう。

◎行事

今現在、まだ多くの制限がある中、なかまが楽しく充実した活動が出来るよう、感染対策や安全面に気を付けて出来る範囲で行事を行った。

なかま一人ひとりが主役になれる誕生会をはじめ、節分や七夕などの行事を通じて「今」を皆で楽しみ、季節の移り変わりを感じる事ができた。

今年度の誕生会は、なかまの写真に皆で飾りやメッセージを書いて貼った手作りアルバムをプレゼントした。コロナ禍の中、家族と共に参加する行事がなくなっていることもあり、写真を通じて普段家では見られないなかまの表情や日々過ごしている様子を知ってもらうこと、なかまに一年の記録として活動の思い出を振り返り、楽しんでもらえると考えた。

恒例行事の初詣やイルミネーション見学は、昨年同様、今年も実施できずに残念であったが今後もなかまの体調や周囲の環境に留意しつつ、活動を検討していきたい。

◎交流

今年度も新型コロナウイルスの影響により、交流活動が全て見合わせとなり残念な結果となった。

今後もなかまの体調に十分配慮し、再開できる時が来たら積極的に参加していきたい。

◎実習

今年も新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に中学生・高校生の職場体験は中止となってしまったが、ユマニテク医療福祉専門学校の学生の実習においては実施できた事は良かった。なかなか外出も出来ず、外部との交流も制限されている環境の中だったので、なかまや職員にとっても良い刺激を受ける事ができた。

来年度も新型コロナウイルスの状況をみて積極的に実習生を受け入れ、お互いに有意義な時間となるようにしていきたい。

◎安全・防災

◎医務・健康

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防に努めながら、なかまの健康管理を行った。

対策として、吸引や胃ろう注入時、食事介助時にも手袋を使用し、手洗い消毒の徹底を行った。またなかまに対しては、保護者との連携をとり体調の変化に留意する事ができた。幸いななかまが新型コロナに感染することもなく元気に登所できたことは良かった。

職員に関しては、前年度同様、対策を強化したが数名感染者が出てしまった。

職員の感染に対する意識があり自己管理することができているため、最小限で収めることが出来たことは良かった。

健康診断は病院で行うことで懸念されたが、なかまと職員が万全の注意をし、予定通り実施し

た。

嘱託医には、5月健康診察をしていただいた。医師はなかまも何名かの主治医であり、普段の様子など把握していただいている。今年度は新型コロナワクチン接種を合計3回していただき、希望するなかまはあじさいの家で接種することができた。保護者に付き添ってもらいスムーズに実施できたことは良かった。インフルエンザの予防接種も希望するなかまと職員に接種をしていただいた。

体重管理に関して、なかまの体重について保護者に報告し、一か月に一回、体重を書いた紙を渡した。職員と保護者でなかまの健康管理の共有が出来、日々の変化を確認できたことは良かった。

今年度は医療的ケア会議をすることができなかったが、職員同士でなかまの体調のことや医療的ケアの共通理解はすることはできた。来年度は必要に応じて会議を行い、なかまの情報共有や手技の留意事項などを確認できるようにしたい。

今後もコロナ感染予防や健康状態の把握など、保護者と職員間で協力し、健康で楽しい活動をしていきたい。

◎研修

月に1回井後PTの訓練研修を行うことができた。なかまの身体の変化や様子などに即した訓練法などの技術を学ぶことができよかった。また、なかまが帰宅後に職員研修を行った。ポジショニングなど実践を交えての研修はわかりやすく、職員のスキルアップにつなげることができたのではないと思う。

子ども心身発達医療センターの古川PTにも年に2回来ていただき、訓練研修をうけることができた。後日、活動の中の訓練で指導・助言してもらった内容をなかま・職員同士で発表し合い、全員での共通理解をはかった。

今年度も新型コロナウイルスの影響で多田先生の訓練会が実施できなかつたり、外部の研修も中止となってしまったことが残念であった。

来年度も新型コロナウイルスの情勢に留意して、職員のスキルアップをはかれるような研修を実施していきたい。

【生活介護】

◎活動

今年度も新型コロナウイルスの影響で、積極的に出向いていく様な外出や訪問して頂く様な対外的な活動が少なく残念だった。

しかし、「創」「動」「楽」のそれぞれにおいて、なかまが心身ともに元気に楽しめる活動内容を考え、一年を有意義に過ごすことができた。

来年度もなかまの体調に配慮し、楽しい活動の時間を作っていきたい。

○ミーティング

週の初めに一週間の予定や様々な連絡事項を確認し、毎日の生活に見通しが持て、関心・意欲を持って活動や行事に参加することが出来た。皆で予定を確認し合ったり、他のなかまの様子やどんな事に興味があるかを知り、意見を交わすことで、コミュニケーションを深める貴重

な時間となった。

今後も和やかな雰囲気の中、一人ひとりの有意義な場となるよう活用していきたい。

○創

○楽

今年度も、新型コロナウイルスの影響で、施設内での活動が多くなってしまったが、色々な内容を工夫することでなかま一人ひとりが楽しい時間となったと思う。

個々のリクエストも参考にし、自分のペースで楽しんだり、リラックス出来る時間を持つことは大切であると感じた。

来年度も社会の情勢に応じながら、その時期に楽しめる活動も取り入れながら考えていきたい。

○動

今年度はなかまの提案によるあじさいの家オリンピック開催の準備が主な活動となった。他の活動のからみや時間の制約などで体を動かす内容が少なかったのが残念であった。暖かい季節になったら競技を行っていく。

また訓練においては、外部の理学療法士による訓練会で得られた指導や、助言等のフィードバックを中心に行った。

今後もなかま一人ひとりが楽しく活動に参加できるよう工夫していく。

○人形劇

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、人形劇公演はすべて中止となる残念な一年になった。

来年度は感染状況をみながら、いつでも公演が出来るよう道具の点検や修理を行ったり、いろいろな人形劇を鑑賞する機会を作るよう検討していく。

○個別外出

今年度も昨年と同様、実施することが出来なかったことが残念であった。

個別外出はなかまにとって特別な楽しみでもあるので、まだ続くであろうコロナ禍の中、なかまの体調や周囲の環境に留意し、感染に配慮して今の現状に合った外出方法を検討していきたい。

【日中一時】

入浴サービス(月・水)を中心に行い、必要に応じて他の日においても対応を行ってきた。また、緊急時の休日利用は年々必要性を増し、サービスを利用できることで、家族の不安解消になっている。しかし、職員の配置等を考えると、気軽に利用してもらえるといたところまでは達成出来ていないと思う。今後の課題である。

【短期入所】

今年度も緊急時には日時を問わずすべて受け入れ可能としてきた。

なかまや家族にとって必要不可欠であり、年々必要性も増してきている。

日中一時と共に、利用の仕方にお互い慣れてきたこともあり、安心して利用出来るようになってきていると思う。また、長期利用のケースも増え、今後日中一時と並行して必要性も高まり、利用も増えていくと予想される。

その為にもお互いの信頼関係を深め、職員体制を改め、もう一步踏み込んだサービスへと繋がるよう考えていきたい。

〈事務部〉

◎庶務・経理

今年度も引き続き菊山会計事務所と連携し、明瞭で確実な業務が行えた。しかし、事業計画であげられた、チェックは複数職員で関わり、透明化を図るという点については、職員間の意思伝達が不十分であったため、取り組みはほとんどなされなかった。来年度の課題としたい。

備品や消耗品等については、迅速な対応ができ、日常の施設運営や活動に支障は見られなかった。

●全体を通して

今年度は、なかまが二人も亡くなるという大変ショッキングな年であった。このことは、あじさいの家のなかまをはじめその家族、職員や関係者全員に大きな悲しみと、大きな課題があたえられた。なかまにとって、環境の変化に合わせていくことが、いかに大変で困難であるか、一人ひとり違いはあるにしろ、想像以上の大きな事であることがうかがえる。できる限り変化を小さくすることは大切であるが、今できること、例えば他のサービスを積極的に利用する事も大切であると感じた。また、相談支援という制度により、相談支援員が本人の必要な支援の全面に位置づけられているが、本人の感情的なところまでは入れないことと、あじさいの家の職員が、相談支援員を超えて直接関わっていくことに限界を感じた。

生活介護、日中一時、短期入所の各事業に関しては、なかまもうまく利用できていると思われる。また、職員においても、体制はいろいろと工夫しながらスムーズな事業展開が行なわれたのではないかとと思われる。

新型コロナウイルスの感染対策においては、今年度も細心の注意を行ない、考えられる対策については、積極的に取り入れ予防対策を行なってきた。また、近隣の関係施設とも情報共有を行なうなど絶えず注意を払ってきた。しかし、最近の感染のスピードにはついて行けず、感染拡大防止に対応しなければならないこともあったが、幸いにもなかまの感染は見られなかったことは、何よりであった。来年度も引き続き感染予防に力を入れていくが、この環境の中で出来ることを精査しながら、なかまの活動を保証していきたい。

来年度は、コロナウィルスの感染予防対策を行ないながら、新たにウィズコロナの観点からの事業展開を考えていくことも必要であるとする。また、生活介護、日中一時、短期入所の各事業を継続しながら、なかまが地域で安心して暮らせるように、具体的な事業展開を考えていく必要があると思われる。なかま、家族、職員、そして関係者みんなの知恵を出し合って、来年度は取り組んでいかなければならないと思う。

令和3年度

